

R-CAP

『文理・科目選択応援BOOK』や「R-CAP」で幅広い進路の可能性を知る

— 神奈川・私立 相模女子大学高等部 —

取材・文／永井ミカ



キャリア指導部主任
水谷彩先生

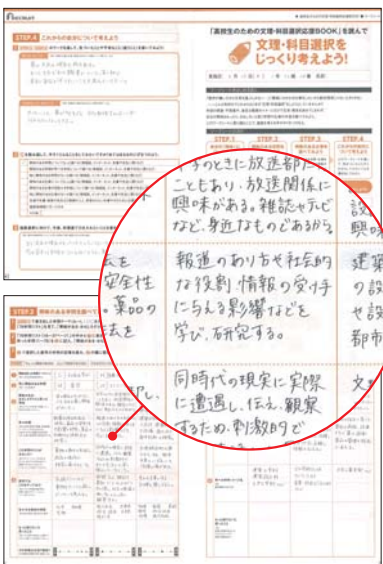
School Data

創立1900年／普通科
生徒数／女子941人
進路状況(2012年度)／大学進学82%・短大進学5%
専各進学7%・就職0%・その他6%
神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL 042-742-1442
URL <http://www.sagami-wu.ac.jp/chukou/>

■ キャリア教育の年間計画 (1学年)

4月	・オリエンテーション
5月	・二者面談 ・受験体験報告会
6月	・キャリア講演会① ・『文理・科目選択応援BOOK』配布/ワークシート ・R-CAPで自分の適性を探る
7月	・三者面談(特進)
9月	・受験体験座談会 ・R-CAP解説会 ・『じぶん未来BOOK』配布
10月	・キャリアガイダンス①
11月	・文理選択説明会 ・二者面談 ・文理選択保護者説明会
1月	・小論文講座/模試 ・二者(三者)面談
2月	・キャリア講演会② ・キャリアガイダンス②

■ 『文理・科目選択応援BOOK』ワークシート



生徒が書いたワークシートは面談の資料として活用。「面談の短い時間で、現在の進路観を二者や三者が共有するのに役立ちます。また、1年生からオープンキャンパスに行く生徒にとっては、大学のどこを見てくるかの指針になるのいいと思います」と水谷先生。

「10年後、20年後を視野に入れたキャリア教育」の実践に力を入れている相模女子大学高等部。相模女子大学への内部推薦制度がある安心感や、幼稚部や小学部から通っている生徒も多いアットホームな環境から、従来は、進路に関して安全志向が強く弱気になりがちな面があったという。しかし、外部との連携強化や多彩な情報提供で生徒たちのモチベーションアップを図り、近年、外部への進学実績も伸ばしている。

講演の依頼をするのは生徒を元気にしてくれる人

同校のキャリア教育の中でも大きな柱となっているのが、社会人によるキャリア講演会や大学生による受験体験報告会。講演を依頼する際、トップクラスの人や模範コースを歩んでいる人だけでなく、第1志望には届かなかつたけれど現在の進路先で充実して過ごしている人、一見関係なさそうな学部学科から専門職へ進んで輝いている人なども選ぶようにしている。「進路選びに関

して『失敗が怖い』という生徒や保護者が多いので、少しでも元気づけたい、視野を広げてほしい、挑戦してほしいという意図で人選しています」とキャリア指導部主任の水谷彩先生は言う。

知らなかった学問や職業を知り自分で考えて文理選択へ

そして、これら講演会と同時進行でリクルートのサービスを活用。1年生の6月に、生徒は職業・学問適性検査「R-CAP」に取り組み、結果は夏休み前に配布。「知らない仕事や、思いもよらなかった仕事に適性があると診断されることで、いったん思い込みを捨ててフラットに考えてほしいという狙いがあります」。

また、同じく、78の学問と533の仕事を紹介した『文理・科目選択応援BOOK』を配布し、興味のある学問や仕事について調べるワークシート(左図)にも取り組む。ここで進路について一度じっくり考えさせるのだ。

2学期に入った「R-CAP」の解説会が行われる。「適性検査の結果を見てこれが向いているんだ、で終わってしまうのはもったいないですよ。ある仕事が20番目の適性として挙がっていた場合、「20番目だから向いていない」ではなく「20番目に向いているものもある」と、外部の人から解説していただくことで、多彩な進路への可能性が広がります。また、みんなで結果を持ち寄り、解説会に参加することで、進路のことを恥ずかしくらずオープンに話せるという効果も」。

解説会では50人の職業人が登場する「じぶん未来BOOK」も配布。「専門職だけでなく、企業の中の仕事のイメージもふくらませられるようです。また、例えばスポーツが好きだから札幌ドームに勤めるといふ進路選びの意外性のある事例がおもしろい。高校1年生だと、スポーツといえば体育の先生くらいしか思いつきませんが」。

これら多くの機会を経て、11月には最終的な文理選択をする。「ここまで、いろいろな人の言葉を聞けたことを生かして、自分で考え選択してほしいと思います」。